
[成果情報名] オクラ、カラシナ、小型カボチャの直売所向け品種の選定

[要約] 新たな消費拡大が期待される直売所向けの特産野菜として、丸莢オクラの「島の唄」と夜須在来白莢系統、カラシナ品種の「サラダからし菜」と「リアスからし菜」及び「わさび菜」、サラダ食に適する多収の小型カボチャ品種「コリンキー」が優れている。

[キーワード] オクラ、カラシナ、小型カボチャ、直売所、特産野菜

[担当部署] 八女分場・中山間地作物チーム

[連絡先] 0943-42-0292

[対象作目] 野菜

[専門項目] 品種選定

[成果分類] 品種選定

[背景・ねらい]

県内の農産物直売所は、地産地消の拠点としての役割が増大しているが、新たな消費拡大が期待できる特徴ある地域特産野菜の生産拡大が強く望まれている。

そこで、夏季の生産拡大が期待される丸莢オクラ、新たな品種の登場で生食等での消費拡大が期待されるカラシナ、多様な特徴ある品種が登場している小型カボチャについて、収量性、品質、生産安定性等の面で優れる品種・系統を選定し、その栽培特性を明らかにする。

(要望機関名：生産流通課、八女普(H17))

[成果の内容・特徴]

- 1．オクラでは、慣行の角莢「ブルスカイ」の収穫適期よりも1～2日遅い長莢(長さ13～18cm)で収穫しても柔らかく食感が良い、F₁緑色丸莢「島の唄」および夜須在来の白色丸莢系統(以下「夜須丸莢」と表記)の2品種を選定した(図1、表1、一部データ略)。この2品種は、長莢収穫すると、多収である(データ略)。
- 2．カラシナでは、欠刻が深い「サラダからし菜」、欠刻がやや浅く濃葉色の「リアスからし菜」、ちりめん葉でワサビ風味の「わさび菜」の3品種を選定した。いずれも抽苔が遅く栽培しやすく、「山汐菜」と同程度の辛さである(図2、一部データ略)。
- 3．小型カボチャでは、生や塩揉み等のサラダ食に適する「コリンキー」を選定した。他品種に比べてきわめて多収であり、収穫適期は果径110mm前後(秋季収穫では開花後13～14日、夏季収穫では開花後9～10日、積算温度210～240 に相当)までである(図3、一部データ略)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．直売所向けの特産野菜を選定する際の資料として活用する。
- 2．丸莢オクラを長莢収穫すると草勢低下しやすいので、控えめに摘葉する。また在来「夜須丸莢」は当面、八女分場等から種子を入手し、自家採種で栽培を継続する。
- 3．カラシナでは防虫ネットを使った雨よけハウスで栽培することで、高品質生産に努める
- 4．「コリンキー」は果実肥大が早いので、採り遅れに注意する。また、ZYMV等ウィルス対策としてアブラムシ類防除に心がける。

[具体的データ]



図1 選定した丸莢オクラ(左の2種)と慣行の角莢オクラ

注)長さ約12cmの莢を撮影(平成18年8月4日)。

表1 オクラ各品種の収穫サイズ、開花後日数、および食感(平成19年)

品種・系統	莢長(平均)	莢重	開花後日数	基部	食感 ²⁾ 中間	先端
島の唄	短(113)	16	6	4.0	3.8 ^a	3.9 ^a
	長(166)	37	8	3.6	3.8 ^a	3.8 ^{ab}
夜須丸莢	短(118)	23	6	3.3	3.3 ^a	3.6 ^{ab}
	長(179)	41	8	3.5	3.3 ^a	3.4 ^{ab}
ブルースカイ	短(90)	11	6	3.9	3.7 ^a	3.9 ^a
	長(149)	33	8	3.5	2.7 ^b	2.3 ^b

注) 1. 9月24日調査。

2. 食感: 莢を1分間茹でた後、基部・中間部・先端部に分けて5mm厚に輪切りしたものを、パネラー7人が「1~5(硬~柔: 3未満は硬くて食べられない)」の5段階で評価。各列の異なる文字間に5%水準で有意差がある(HoImの方法)。



図2 選定したカラシナの葉の形態と抽苔株率(平成19年)

注) 1. 写真は平成18年6月21日撮影(播種後23日目)。
2. 抽苔株率は3月13日播種、雨よけハウス栽培、畝幅120cm、株間7cm、4条(47,000株/10a)。

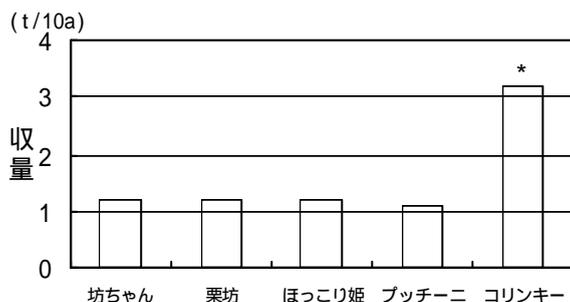
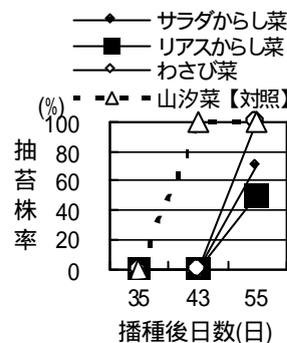


図3 小型カボチャ各品種の収量性と選定品種「コリンキー」の果実(平成17年)

注) 1. 播種: 5月31日、収穫終了: 9月15日。
栽培密度: 条間3.4m、株間0.9m、325株/10a。
仕立て法: 主枝を6節で摘心、側枝放任。
2. 「コリンキー」は未熟果を、その他品種は完熟果を収穫。
3. *は5%水準で有意差あり(Tukeyの検定)。

[その他]

研究課題名: 新たな地域特産野菜の開発
 予算区分: 県特(サラダ食野菜開発事業)
 研究期間: 平成19年度(平成17~19年)
 研究担当者: 執行明久、成山秀樹、柴戸靖志、月時和隆